



# ロクハの自然

facebook「ロクハ見守り」 [www.facebook.com/rokuhafamily](http://www.facebook.com/rokuhafamily) ロクハ公園HP [www.park-698.net/](http://www.park-698.net/) ロクハ公園HPいきもの図鑑 <http://www.park-698.net/zukan/>

## ロクハ公園に一番たくさんいる虫は？

公園の施設見学に来た、小学2年生が事前に寄せていた質問です。数で言うとアリやアブラムシなどになるかもしれませんが存在感がありません。年間通して振り返るとチョウというのがいいかも。飛んでいるという存在感が圧倒的です。早春から晩秋までいます。今の時期は朝の気温が下がります。体温が下がって活動できません。少しずつ気温が上がリ、陽の光があびられると一斉に目につきます。10/10は雨上がりで日差しが出ると一斉に見られました。10/11は日差しはあるのですが風が強くてあまり出てきませんでした。本命はアサギマダラだったのですが



ウラギンシジミ♂

白い翅の裏が目立ち高速で移動しています。こんな日は葉っぱにとまり翅をひろげます。オレンジ色が見えたら♂。水色が見えたら♀



キタキチョウ

ミソソバが咲いています。吸蜜です。この時期が数多く見られます。このチョウも表を見せてくれません。温まっている時はチャンス。



ウラナミシジミ

翅の裏の模様が奇麗、吸蜜しながら翅をひろげる。草津あたりでは冬死滅するようで、今の時期みる他地域で繁殖したものの広がり



ツマゲロヒョウモン♂



ルリタテハ

樹間で見られる種で、草原で温まるのはこの種らしい。岩の上や人工の縁石もよく停まる。この色は威嚇と求愛の色、そのためには根をひろげる。翅を閉じている時、裏側は樹皮に紛れる色

翅の端が黒いヒョウモンチョウ、特に後翅の下部がよく示す。公園で見られるヒョウモンチョウは殆どこの種。左上のルリタテハと一緒に写っているのは♀。



ヤマトシジミ♂

カタバミを幼虫が食草とする、最も見られやすいシジミチョウ。メスは表が黒っぽい



モンキチョウ

後翅の中央に抜けたような白い斑が見られる。モンシロチョウと混同されやすい。黄色いのはキタキチョウだけと思って可。



ツバメシジミ

翅の裏のオレンジ色と後翅の突起が特徴で見分けが付きやすい。シジミチョウの中でこの突起がある種には「ツバメ」の称がつくことが多いです



10/9

10/11

## 番外編・クロコノマチョウの蛹

クロコノマチョウの蛹があり、先の昆虫ウォッチングの時にも観察しました。翅が浮かび上がってきたので、まもなく羽化すると話してました。この日は翅の色・紋まで確認できます。腹部(上のほう)の殻に隙間ができています。羽化直前です。羽化に立ち会いました。その様子は後日facebookページで



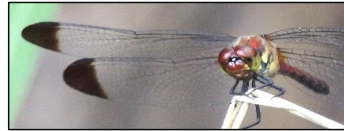


# ロクハの自然

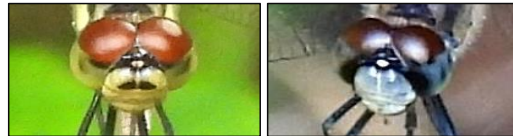
facebook「ロクハ見守り」 [www.facebook.com/rokuhafamily](http://www.facebook.com/rokuhafamily) ロクハ公園HP [www.park-698.net/](http://www.park-698.net/) ロクハ公園HPいきもの図鑑 <http://www.park-698.net/zukan/>

## 赤とんぼの季節・役者はそろった

9月末、枝先にとまっているトンボにアキアカネはいませんでした。10月に入ってアキアカネの数が増えました。数的にはアキアカネが多くこれから広場で乱舞することもあるかと思えます。facebookのページやこの「ロクハの自然」でアカトンボシリーズとして続けてきました。今回は最終総集編です。難しいこと気にせず「赤とんぼ」でいいと思うのですが、より詳しく見てみると色々なのがわかります



翅の端っこが黒いかどうか。黒かったら  
ノシメトンボ、コノシメトンボ、リスア  
カネ♂α。



顔（口鼻部分）に特徴がある種類、黒い斑があるマユタテアカネ、その部分が青く色づくマイコアカネ。ただし、他の種類にもこの特徴が出るもののあり気を付けます。

最終手段、確定するのは胸部横側の黒い模様（条線）です。これだけしっかり記録すれば、ほぼ同定できます。飛んでいる時はほぼ確認できません。とまっても横向いてくれないと翅が隠してしまうケースも。成熟して真っ赤になると模様はわかりません。個体差もあります。捕まえないとわからないですが、写真記録はそれに補うものです



リスアカネ

コノシメトンボ

ノシメトンボ

マユタテアカネ

ヒメアカネ

マイコアカネ

ナツアカネ

アキアカネ

**翅の端が黒い**

**翅の端が黒くない**

アキアカネは6月に羽化しますが暑い時期高所に行きく不在ですが秋によく目につくのでアキアカネです。秋にいる暖色系のトンボが、赤とんぼとして景色を作ります。真っ赤なショウジョウトンボが夏場にいますが赤とんぼとはいいにくい。どのトンボにも♂♀の見た目の違いがあります。オスのほうがより赤くなるようです。今回挙げたのはロクハ公園でここ数年で見られた種類です。こんなの見られたよという情報を待ってます



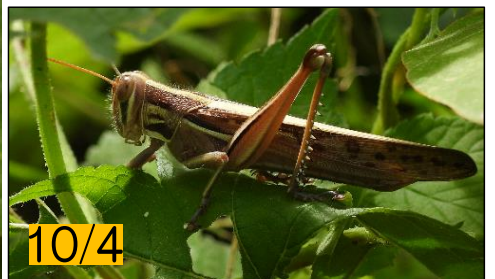
10/4



9/28

### ツチイナゴ

こちらも最近よく出会います。成虫になっての冬越しでまだまだ余裕があるなと思ってましたが、ほちほち見られるようになりました。眼が何にも変わらないのが不思議です。



10/4



9/29

### オンブバッタ

最近よく出会います。色違いのカップルがおんぶ状態での違和感を感じますが虫たちにとっては色は関係ないのでしょうか。飛び翅をもっているようですがオスが乗っかっていたら翅が使えないです。上に乗っているのはオスでメスを他のオスと交際させないためののっているようです。9/29の写真はちがうオスがメスの背中をねらっているようです。



9/27





# ロクハの自然

facebook「ロクハ見守り」 [www.facebook.com/rokuhafamily](http://www.facebook.com/rokuhafamily) ロクハ公園HP [www.park-698.net/](http://www.park-698.net/) ロクハ公園HPいきもの図鑑 <http://www.park-698.net/zukan/>

## チョウは夏型の恋の季節か？

公園の入り口の花壇でアゲハチョウがヒガンバナの蜜を吸っていました。どこからかもう一匹現れ近くを飛び始めました。求愛活動だと思えばらく見ていました。花じゃないところに移り受け入れるようです。何度も何度も接近していました。



後翅中央に赤い斑が見られるのが♀、ないのが♂です。多くのチョウは春型と夏型があります。同じ子孫なのに不思議です。一生を短期で終える生き物の工夫なのかもしれません。アゲハの場合、翅の端の黒っぽさが夏型が多くオスには中央の赤い斑がありません。夏型が♀ともに大きいです。私にとっては並べてみてなるほどと思うぐらいです。秋に見られるのは明らかに夏型です。



春型♀

**フジバカマ** 秋の七草のひとつのフジバカマが咲き始めました。入り口の花壇と中央花壇に少しずつ見られます。



フジバカマ



ヒヨドリバナ2019/10/07



アサギマダラ 2021/09/29

ムシに関心を持たない人も遠く旅するチョウとしてのアサギマダラに興味を持っておられる方は多いと思います。フジバカマの開花はアサギマダラのオスを呼ぶ花として有名です。旅の途中に立ち寄ってほしいと植栽されるケースもあります。かつては秋の七草になるほど自生していたらしいのですが、今では園芸種になっています。ヒヨドリバナはフジバカマの原種のような花、ロクハ公園にもところどころに自生しています。今年もアサギマダラに出会いたいなとフジバカマを見て思います



キンモクセイの開花



におうカツラの木



スズメバチが怖い季節

見た目はまだひっそりしていますが、臭いは十分「これは！」とすぐに気づきました。咲初めは黄色、開花後は少しずつオレンジ色になります

こちら「あ、カツラだ」と思い確認しました。甘いお菓子のよう匂いです。落ちた時の葉っぱが一番臭うようです。胸ポケットに忍ばせておきたいぐらいです。

秋の日のスズメバチが一番恐れる時期です。まだまだ巣を拡大するし、幼虫は肉団子を要求します。出会ったときは静かに離れるのを待ちましょう。





# ロクハの自然

facebook「ロクハ見守り」 [www.facebook.com/rokuhafamily](http://www.facebook.com/rokuhafamily) ロクハ公園HP [www.park-698.net/](http://www.park-698.net/) ロクハ公園HPいきもの図鑑 <http://www.park-698.net/zukan/>

## ロクハでは大過なく過ぎた台風

先週号の予告通り、ヒガンバナの開花は涼しい風を運んできました。芽を出し育ち始めていた葉物野菜が強風でやられるとあらかじめ予想しましたが予想に反してこの地は災害を免れほっとしました。大きな災害となった地域に思いをはせます。



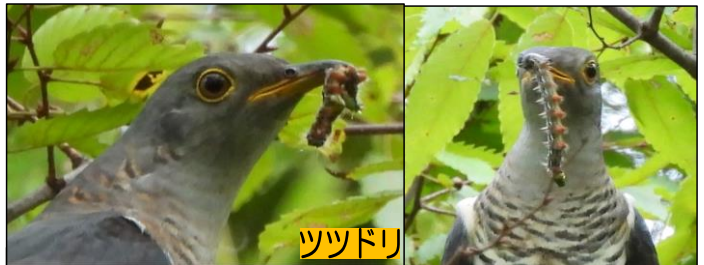
ヒガンバナ

南ゲートの水路にそって生えています。植栽されたのでしょうか。この水路はももとの青線を利用されているみたいで、土手に植えられていたものかもしれません。段々畑や棚田のあぜに咲いている様子は、日本のいろんな場所で親しまれた里山の景色です。私にとっては春のツクシのようなアイテムです。



ヤマトシリアゲムシ

初めて出会ったとき、サソリかと思いました。サソリのように巻き上げられた器官は攻撃のものではなく生殖のためにあるものです。肉食ですが死んだ生物を専門にしているようです。ちなみにメスは巻き上げが見られません。



ツツドリ

注目のツツドリは4羽が確認されています。ケヤキについでいるケムシを次から次へとおいしそうに食べていきます。ツツドリは南へ移る途中ですが、繁殖はカッコウやホトトギスと同じように托卵する鳥です。他の種の鳥の巣に卵を産み付けその巣の親は、我が子のように育てるわけです。



シャチホコガの一種

シャチホコガの多くはこんな模様が要るのかと思うくらいの擬態です。擬態の方向も場所限定で、ところ変われば余計に目立つものもいます。この日であったのは形状が見事、これで飛びますから驚き



又スビトハギの種子

前回報告した2種の又スビトハギの実が出来上がりました。上段が又スビトハギで種は二つ、下段はアレチノ又スビトハギで種が4個・3個です。アレチノ又スビトハギのひっ付き虫はやかいかいです。



カマキリの鎌が骨折

草むらカマキリにすこく出会います。大きくなったカマキリはいっそう強くなったように思います。かなり近くにいたカマキリが一触即発状態で見ました。このカマキリの鎌は折れていました





# ロクハの自然

facebook「ロクハ見守り」 [www.facebook.com/rokuhafamily](http://www.facebook.com/rokuhafamily) ロクハ公園HP [www.park-698.net/](http://www.park-698.net/) ロクハ公園HPいきもの図鑑 <http://www.park-698.net/zukan/>

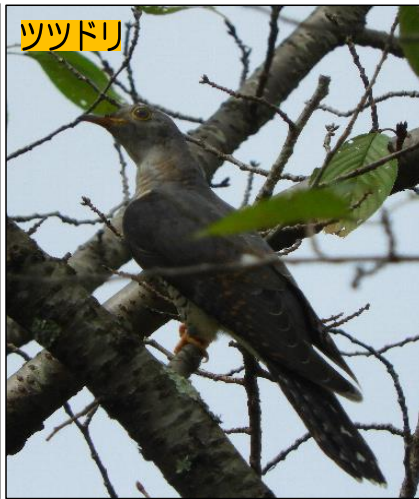
## 中秋の月を見たのに暑い暑い

10時半ごろの気温が29度、いくら何でも九月に入れば、などと思っていましたが最低気温もあまり下がらないのでよけいで暑く感じます。まもなくお彼岸、ヒガンバナをさがすころは涼しいはず、きっと涼しいでしょう。



### メタセコイアの色が・・・少し早くない?

メタセコイアの葉っぱの色がやけに黄色く見えました。お米の出来が1週間ほど遅いので森の中も遅れるのかと思ってます。下の写真はアケビの実、こちらはまだまだかたそう。去年は色づき始めてました



ツツドリの出現は数多くなってきました。カメラマンの数も徐々に増えてきています。朝早く京都から来たという方もおられました。みなさんのねらいの鳥はツツドリですが、他の野鳥も見られるようになりました。コサメビタキもエソビタキもわたっていく鳥です。ロクハ公園を經由して目的地まで旅します。この三種はしばらく滞在し次を目指しますが、旅の途中に立ち寄りお茶休憩をして次に行くものもあります。冬の間、ここで滞在するものはもう少し後で入ってきます。この公園で営業し年中すぐすものもあります。夏の間はその動きが見えにくいですが、徐々に見やすくなってきます。



ブロムナードの花壇で吸蜜するキアゲハ。ストローでおいしそう。

イチモンジセセリとキマダラセセリ。 ツマグロヒョウモン オンステージ





# ロクハの自然

facebook「ロクハ見守り」 [www.facebook.com/rokuhafamily](http://www.facebook.com/rokuhafamily)    ロクハ公園HP [www.park-698.net/](http://www.park-698.net/)    ロクハ公園HPいきもの図鑑 <http://www.park-698.net/zukan/>

## 台風の最接近時には風が強かったです

強風が吹いても多目的広場に入ると雰囲気が変わりますが、台風の風は様子が違います。森全体が大きく揺れているのを感じました。送電線鉄塔のもがり音が響いていました。



手前の木はユリノキ、大きな葉っぱがあおられて裏向いていました。その向こうはメタセコイア。この上部は南風にむかえれ傾いています。

いつもの通路、片方はメタセコイア片方は小高い、丘の林、無風でした。



クズの花が咲いています。かつては社会生活と密接であった植物と思われませんが雑草として扱われるほうが多いかもしれません。吉野葛で有名な、根から採取されたでんぷんは有名です。風邪薬の葛根湯はクズの根を利用した生薬、つるから採った繊維は布としても使われました

春に咲くフジとそっくりです。マメ科ですから花の形はどちらも特有の形、漂ってくる強いにおいも似ています。フジは垂れて咲くのにくらバクズは立って伸びていきます。漢字で書くと「葛」と「藤」合わせて「葛藤」と思いましたが葛は「カズラ」、クズを含むつる性の草の意味合いが濃いようです

### よく似たイラクサ仲間の二種



ヤブマオ

カラムシ

葉の表

葉の裏

花の形



エンマコオロギ

いい声で鳴いています。夏草の除草後つんで乾燥させておくと必ず入ってくるように思います。大きさからか、顔の様子かどこが閻魔なのでしょう。





# ロクハの自然

facebook「ロクハ見守り」 [www.facebook.com/rokuhafamily](http://www.facebook.com/rokuhafamily) ロクハ公園HP [www.park-698.net/](http://www.park-698.net/) ロクハ公園HPいきもの図鑑 <http://www.park-698.net/zukan/>

## 秋雨前線やススキ梅雨の言葉を聞くようになりました

公園管理の作業をされている方がおっしゃってました。今年の草の伸びぐあいはすごい。暑さがガンガン続き木々に散水が必要だったことはなく、雨が降るとたつぷりと降った。草花はのびのび育ったのでしょう。

**いろんな実を撮ってみました** 実りの秋ははじまりつつあります。園内の草木もいろいろな形で実をつけます。鳥や虫たちの大切な食べ物でもあります。散策しながら探してください。



イチヨウ



ムベ



ハゼノキ



フシントンヤシ



コナラ



マテバシイ



ニシキギ



サルトリイバラ



カクレミノ



カラスザンショウ



クリノキ



モミジバフウ



アカメガシワ



タンシナバ



カラスウリ



コブシ



カキノキ



クリ





# ロクハの自然

facebook「ロクハ見守り」 [www.facebook.com/rokuhafamily](http://www.facebook.com/rokuhafamily) ロクハ公園HP [www.park-698.net/](http://www.park-698.net/) ロクハ公園HPいきもの図鑑 <http://www.park-698.net/zukan/>

## 処暑・暑さが落ち着く？期待しましょう。

処暑(8/23)地蔵盆だ。コロナ禍は地域のイベントや行事が中止になることが多く季節感が減ってきました。公園の自然は地球温暖化の影響で、動植物の動きに少しずつ変化を出していると思いますが、時計のようにピッタリと動き出すものもあると思います。



ウスバキトンボの翅脈の色

### 地球温暖化の指標オシロカラカサタケ

川原池の南側を六いている斜面はオシロカラカサタケがよく見られます。これも発生の条件があるわけですが、除草作業と雨が重なった初夏、初秋に顔を出します。南方系のキノコで近頃の日本の風土に馴染んできたようです。芝生地によく顔を出しBBQを楽しんでいる人たちが、誤って食べ中毒を起こす毒性の高いものです。

お盆のころ大量に見られるので「精霊トンボ」ともいわれます。甲子園で赤とんぼと紹介されるなど、赤トンボの中間と混同されます。毎年海を渡ってやってくる旅行者。寒さに弱く、日本の風土ではヤゴ・卵も死滅します。地球温暖化はこの種の光明か



### モンクロシャチホコガ

木々の葉っぱが紅葉の時期でもないのになくなっている、特に部分的になくなっています。こんな時必ず幼虫の集団がいます。最初は一枚の葉っぱですが、大きくなると枝いっぱい音が聞こえるほどの食べっぷりです。地面の色が変わるぐらいに糞が落ちているのに気づく場合もあります。



### イボバッタ

一度見かけたら、次の日、その次の日と同じ場所でもよく見られます。テリトリーがあるのでしょうか。この日は思いっきり近づいて撮影できました。眼まで土っぽく見分けにくいですが、写真のようにつるつるの眼がしっかりと見られます。

### かまきりによく出会います

カマキリもすっかり育ち、最後の脱皮を終わり翅をもつ成虫になっているケースが増えてきました。その分、他の虫を捕まえて食べる時にも出回ります。オオカマキリがキクイタダキ(日本の野鳥では最小)を捕まえて食べている記録もあります。左はコカマキリか。ここ数日同じ場所で狩りをしています。いい場所なんでしょう。右はハラビロカマキリ幼虫時代の特徴、後尾がせりあがっています。この時は食事中、邪魔されて気分悪そうです







# ロクハの自然

facebook「ロクハ見守り」 [www.facebook.com/rokuhafamily](http://www.facebook.com/rokuhafamily) ロクハ公園HP [www.park-698.net/](http://www.park-698.net/) ロクハ公園HPいきもの図鑑 <http://www.park-698.net/zukan/>

## 残暑お見舞い申し上げます。

立秋(8/7)から秋分までが残暑、暑さがなかなか終わらない8月下旬までを思うのが残暑見舞い。異常な梅雨明けから始まった暑い夏ここまで来ました。お盆も過ぎたら季節が動きます。朝夕の涼しさがまし、秋の虫が鳴き始めるはずです。暑くても鳴くはずです。これからの公園は、季節のかわっていく様を「まだまだ暑いね」と言いながら探るのが楽しみです。



### 夏の代表選手カブトムシもさみしそう

この夏も多くの子供たちが探し求めたカブトムシ、公園にもその跡がいっぱいありました。カブトムシの寿命は1年、まもなく命絶えてしまいます。その跡には卵・幼虫が、命をつないでいます。カブトムシ観察小屋のオープンも終了し、来年度開園に向けて飼育が始まります



### 秋の景色を運ぶ茜トンボ

一般的に言われるアカトンボ早くに出ているのですが、みんなの目につきやすくなる時期がこれからでしょう。「秋津園」はこのトンボ群のことを表しています。夕焼け小焼けのあかとんぼも。上の写真はコノシメトンボ。けっこういろんな種類がいます。同様に悩む時期です



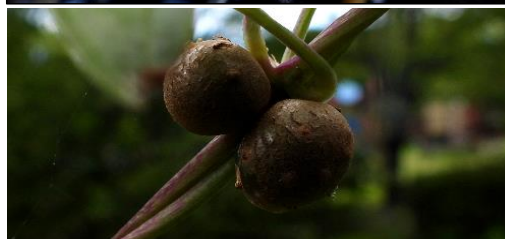
### 早くも登場ツツドリ

毎年、八月下旬にやってきて滞在します。ここではケヤキやサクラにつく毛虫が目当てです。このケムシがいなくなる時期になると旅立ちます。ツツドリがくると観察者が増えます。ツツドリ観察の有名ポイントになっています。多目的広場のケヤキ並木にカメラが並びます。ロクハ公園の秋の景色です。野鳥観察の年度初めにしています。野鳥ウォッチャーとして動き出します。



### ジャブジャブ小川にいたヤゴ

図鑑で調べるのですが微妙に違うのを見分けられませんでした。それでヤゴを採取し羽化を待ちました。たくさんの羽化殻も見られたのでとりあえず1週間様子を見ることにしました。観察をはじめ三日後羽化しました。ウスバキトンボでした。水がたまり始めた6月以後に産卵成長をして羽化です。このトンボの繁殖力にびっくりです。卵から羽化まで1月と書かれています。ちなみにオニヤンマは2・3年、長い7年かかるものも。



### ヤマイモの木にムカゴが

好みにもよりますが、秋の恵みとして重宝されるものです。ムカゴご飯にしたことがあります。独特の風味が好かれるんだと思いました。ヤマイモは、今花をつけています種ができます。地中にはイモができます。とろいもにします。このイモは種イモになります。ムカゴは地面に落ち芽を出します。





# ロクハの自然

facebook「ロクハ見守り」 [www.facebook.com/rokuhafamily](http://www.facebook.com/rokuhafamily)

ロクハ公園HP [www.park-698.net/](http://www.park-698.net/)

ロクハ公園HPいきもの図鑑 <http://www.park-698.net/zukan/>



## ジャブジャブ小川の生きものたち

ロクハ公園は丘陵地にあり雨水を排水する水路はありますが常時水を蓄えている川はありません。ジャブジャブ小川は、それを人工的に作り上げています。飛び石遊びで人気の、ジャブジャブ池はその水がたまる場所メダカや下の池の小魚を撮って放流してあります。それを採って持ち帰る人がいるのに苦慮しています。そんなことを考えるイベントとして池の見守ってもらいます。3年ぶりに行った今年の活動では、思っていた以上に住み着いているのを確認しました。以前に見られなかったものに出会い、私もうれしかったです。その日は記録できなかったのですが、ここの2、3日で網を入れて記録しました。

今期は冬・春と降水が少なくこの池が干上がっていました。ここに集まっていた生き物は死滅するか移動をしてしまいました。水が入り生き物は5月末から集まり始めたものです。なのでこんなにもいるのかと余計に驚いたのです。



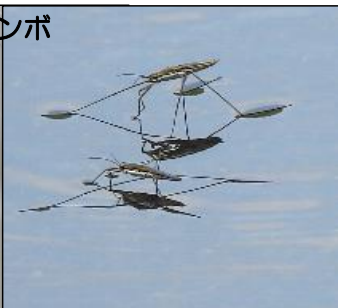
**ヤゴ**  
このタイプのヤゴがたくさんいました。羽化殻もゴロゴロと見られます。シオカラトンボがたくさん飛んでいるのですが、この時期にたくさん羽化するのはいかがでしょうか。水がたまった短期間でそだったのは思いめぐらします。ここしばらく園内でよく見られ始めたのがウスバキトンボ、この可能性も大あります。毎年南から繁殖しながら北上していきます

**シオカラトンボとギンヤンマの産卵**  
シオカラトンボは色々な場所で自分のテリトリーを確保しています。ジャブジャブ池のはオスのシオカラトンボがひしめき合っています。いい場所なんでしょうか。水辺は産卵場所にもなるので一等地なのかもしれません。ギンヤンマが周回してきますが、それをも追いやります。ギンヤンマの産卵も見られます。そこにもシオカラトンボがやってきて追いやります。



**オオヒメゲンゴロウ**  
甲虫の仲間なかぶトムシと同じように固い上翅をもっています。ハイロゲンゴロウだけだと思っていましたが、拡大してみるとオオヒメゲンゴロウだとわかりました。

**マツモムシ**  
こちらの2種はカメムシの仲間セミのような翅の着き方です。マツモムシは2種いそうです。コオイムシは今季よく見かけます。詳しい方によるとここでは珍しいと。背中に子どもを背負って生活します。生で見てみたいです



**アメンボ**  
ごっそりいるアメンボ、今回何がいるかで水の中に網を入れ始めて、こんな小さなのがいるとわかりました。図鑑で調べるのですが情報が少なくはつきりません。よく見ているアメンボの幼虫かもしれません。アメンボはカメムシの仲間です。

**イサザ**  
川原池にはいることを確認しています。ここはしばらく水がなかったことを考えると、ここまで上ってきたことがわかります。睡蓮の池にはたくさんいました。隣の池なので見られたのでしょうか。ここにはアオモンイトトンボは飛んでいません。